

昔の親子と今の親子を比較して

宮崎市 チャイルドハウス大淀保育園園長
海老原 恵子



■ 略歴

昭和23年9月3日生
昭和44年4月 社会福祉法人 江平保育園
昭和60年4月 私立保育園
チャイルドハウス大淀設立（60名定員）
平成8年7月 現在に至る

通算して 三十年ぐらい 保育者をやっています。「子供だけ相手の仕事だったら、どんなにいいだろう」と 数えきれない位思ってきたし、「この仕事だいすき」と思う今でも、「親がめんどろ」と思うことが、年に一、二回はあります。永い保育者生活の中で、多くの母親達と接してきました。昔の母親達にくらべ、自信のない母親、無知な母親が何と多い今でしょう。核家族、近所付き合いの簡素化などから、子育ての不安や疑問を、どこにも持っていけない状況が、こんな母親達を作っているのではないのでしょうか。多くの保育園で、保育のベテラン者が、園内外からの育児相談をうける企画を持っています。このような相談の場がある事を、たくさんの若い母親達に知ってもらい 子育ての情報交換や相談をする事によって 不安やストレスを解消していただきたいと思います。そして、もうひとつ、今の母親たちの姿を浮きぼりにしている事は、入園、一時あずかりの理由として、「自分と一日中いる 子供がかわいそう」とか「子供の気持ちが わからない。ノイローゼになりそう」というのが増えています。昔の入園の理由のほとんどは「共働き」でした。

さて そんな母親達の具体例として

その一、テレビのコマーシャルで、パンパースの宣伝があります。「うちの子供は、テレビのように、ブルーのおしっこをしないのですが大丈夫ですか」と相談の電話をうけた事があります。

その二、母親と二人暮らしの三才児。夕方の迎えで「お父さんのお迎えヨ」と言うと「違うヨ。あれはお母さんのお父さんヨ」と言う。実父ではない。同居の男性がいるのです。三才という年令で、一生懸命考えた末の「自分との関係」に痛々しいものがありました。

その三、父と母と三才男児の暮らし。毎朝七時三十分登園。降園十九時の子供。母親の仕事は三時終了。熱の時、必ず市販の薬。微熱でも登園。嘔みつきが多く、多動児。今頃、手の平や甲への火傷のような跡が、気になります。この子の心や体への、やさしい配慮はあるのでしょうか。母親の心身の不安定さが、幼児虐待というケースにならないかと、案じます。

そして、爪切りを恐がる母親の多い事。昔は父親の膝の中で、切ってもらったものです。ひげ剃り跡をはしゃぎながら、痛がったり、タバコ臭かったけどあったかくて、安心感があり、あの爪切りの時間が、自分達を守ってくれる、大好きな父親を確認する、ひと時でもありました。今は、園で切ってあげる子供の多いこと。保育は、新保育指針になり、遊びの中から学ぶ教育、心を育てる教育に力を入れています。心を育てる事で、適度のストレスやいじめをのり越え、育っていく能力を養うことでしょう。